
2021年度 事業報告書

より良い2022年度を創りだすため



特定非営利活動法人
今治 NPO サポートセンター

目 次

Ⅱ 2021 年度事業報告	2
1. 今治市民活動センター管理運営事業	2
2. その他の事業	13
3. 会議に関する事項について	14
Ⅲ 2021 年度決算報告	15
Ⅳ 2022 年度事業及び予算	20
1. 2022 年度事業計画書	20
2. 2022 年度事業予算書	25

Ⅱ 2021 年度事業報告

1. 今治市民活動センター管理運営事業

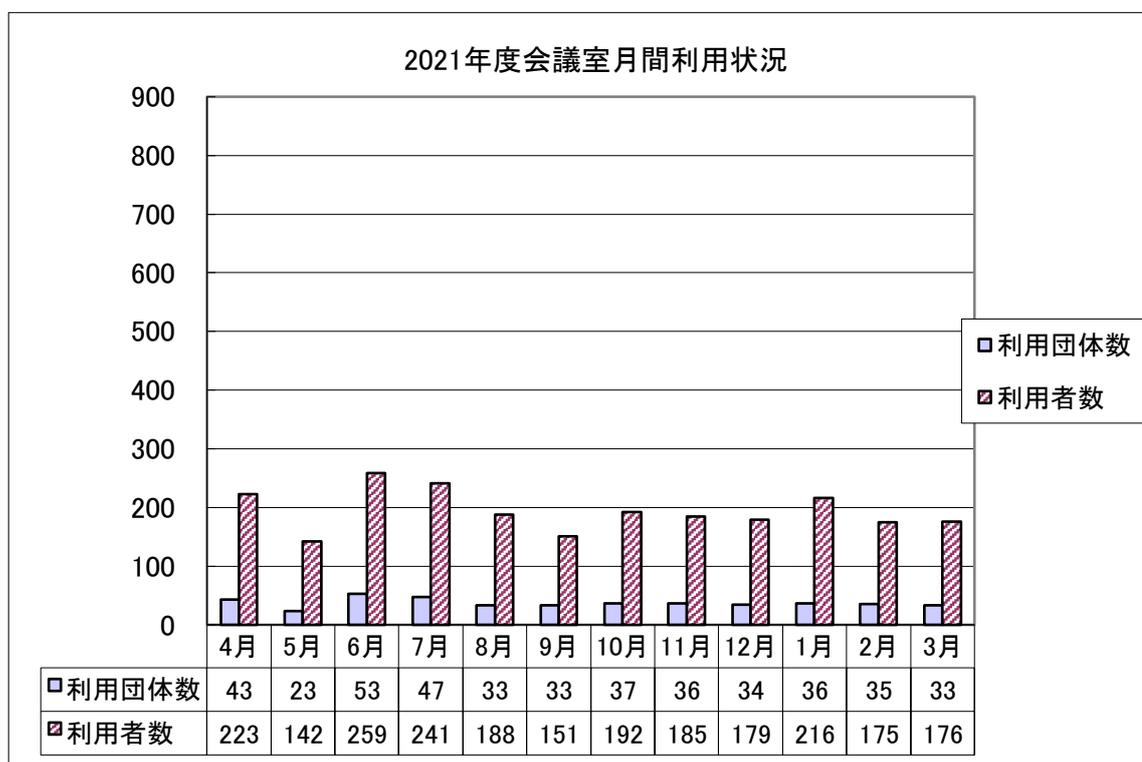
(1) 施設の運営業務（使用調整、受付・案内業務など）

内容	<p>通年事業（月から土曜日 10 時～19 時開館） （事前申込みがあれば、日曜日、祝日 10 時～18 時開館。平日 22 時まで開館）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸会議室の無料提供（登録団体に限る） ・機材の貸出 ・情報交流スペースでのインターネット回線の利用や書籍の貸出 ・貸事務所の効率的な運営
対象	センター登録者・市民ボランティア・一般
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは使用者と積極的にコミュニケーションをはかり、意見の収集に努めた。 ・事務所入館団体募集を広報、機関紙等で行い、入館を呼びかけた。
結果	<p>会議室の利用者は 443 団体 2,327 人となった（R2 年度；449 団体 2,477 人）。新型コロナウイルスの感染対策期は、①会議室利用者は定員の半数まで ②利用者は今治市内在住者に限る ③不要不急の利用の自粛を呼びかけた。年間を通して、利用が少ない傾向が続いた。使用者の安全、施設へ安心して来場いただくため、手指の消毒、マスクの着用等の感染防止対策を進めた。手洗い、喚起、間隔を空けての着席など、使用者が率先して感染防止に努めていただけた。また講座の開催、交流会等については少人数での開催、資料配布による意識共有等の手法転換により進めた。登録しての会議室使用は減少したが、登録していない団体との情報受発信、相談・コーディネーションを通してのつながりがあり、施設の認知にはつながった。</p> <p>今年度の登録は新たに 2 団体あった。島しょ部などを中心に、活動を活発化する動きがあり、停滞気味だった活動の立て直しの相談などがあった。一方で、団体の解散や活動内容の変更等により、登録辞退の 1 団体があった。貸し事務室は、3 月末現在で 11 団体が入館、内 1 団体が 1 部屋を使用している状況である。</p> <p>施設の老朽化は否めないが、修繕必要箇所への応急的な対応、早めの対処により、一定レベルの快適さのもと、使用をいただけている。また、使用者も参画しての施設の美化により、清潔感・安心感がある施設となっている。引き続き、多くの団体に気持ちよくセンターを使用していただけるように、担当課と連携をとりながら、よりよい使用環境を整えるように尽力したい。</p> <p>《使用者の声》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場があり、使いやすい。 ・1F 会議室が便利。広くて便利。 ・遅くまで使え、仕事終わりに助かる。 夜間（19 時以降）の対応が助かる。 ・雰囲気が好き。 ・無料で助かる。安価である。 ・とても親切な対応。丁寧に対応してくれる。 ・照明が暗い。 ・駐車場がとめにくい。 ・エアコンの効きが悪い。 ・開館を 9:00 ぐらいにしてほしい。

2021年度センター利用状況詳細

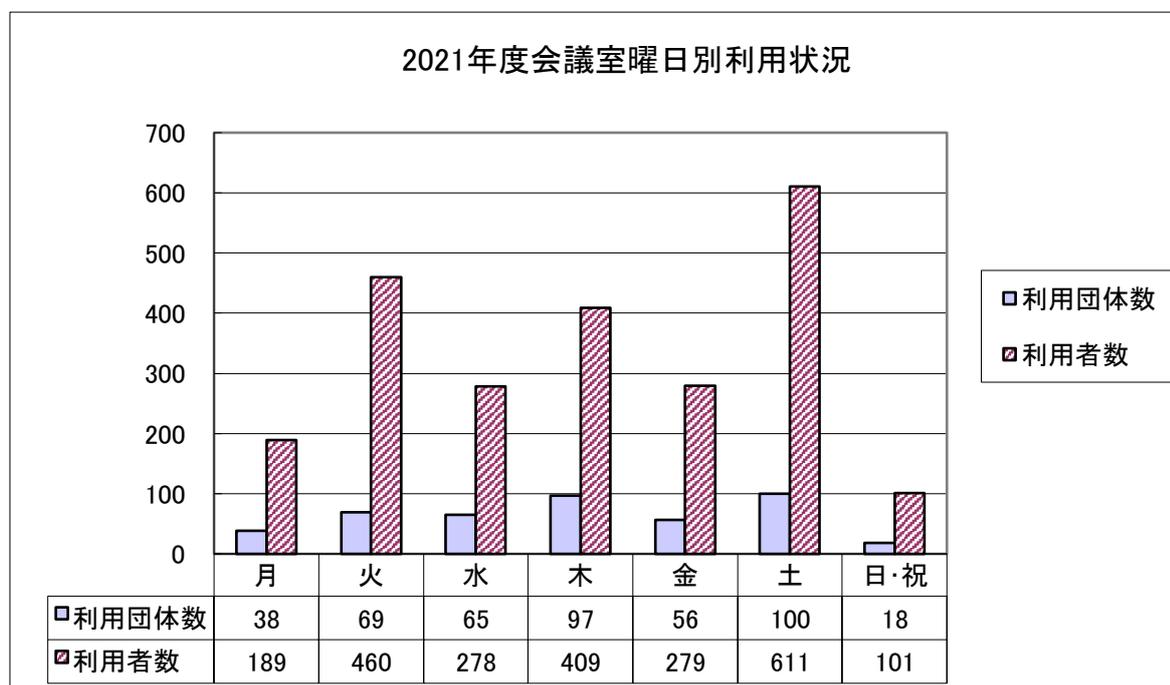
【センター利用状況(月間)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用団体数	43	23	53	47	33	33	37	36	34	36	35	33	443
利用者数	223	142	259	241	188	151	192	185	179	216	175	176	2,327



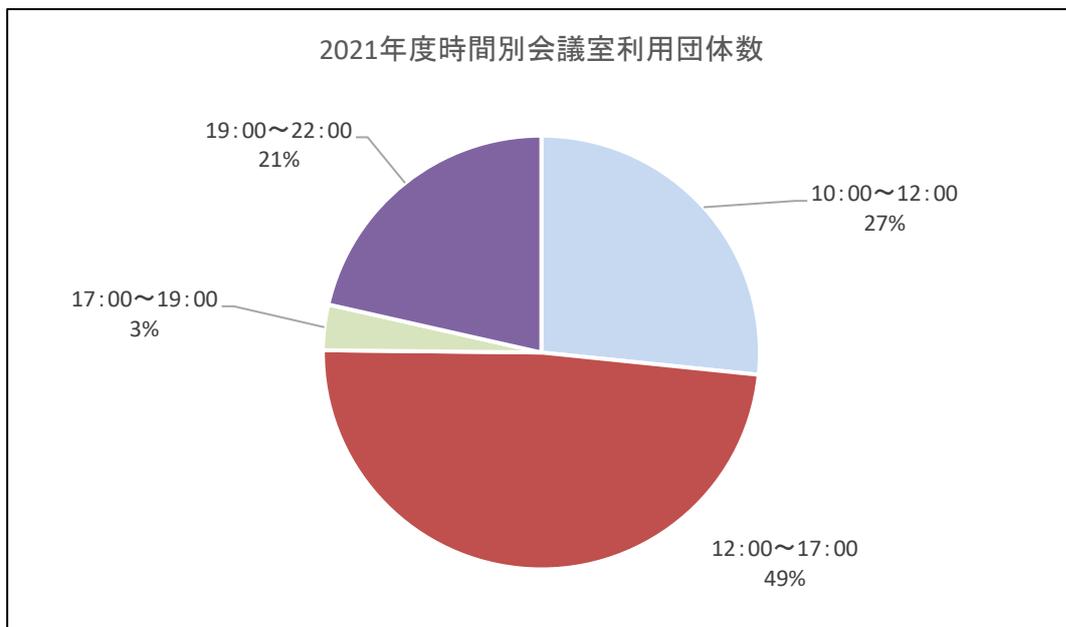
【センター利用状況(曜日別)】

	月	火	水	木	金	土	日・祝	合計
利用団体数	38	69	65	97	56	100	18	443
利用者数	189	460	278	409	279	611	101	2,327



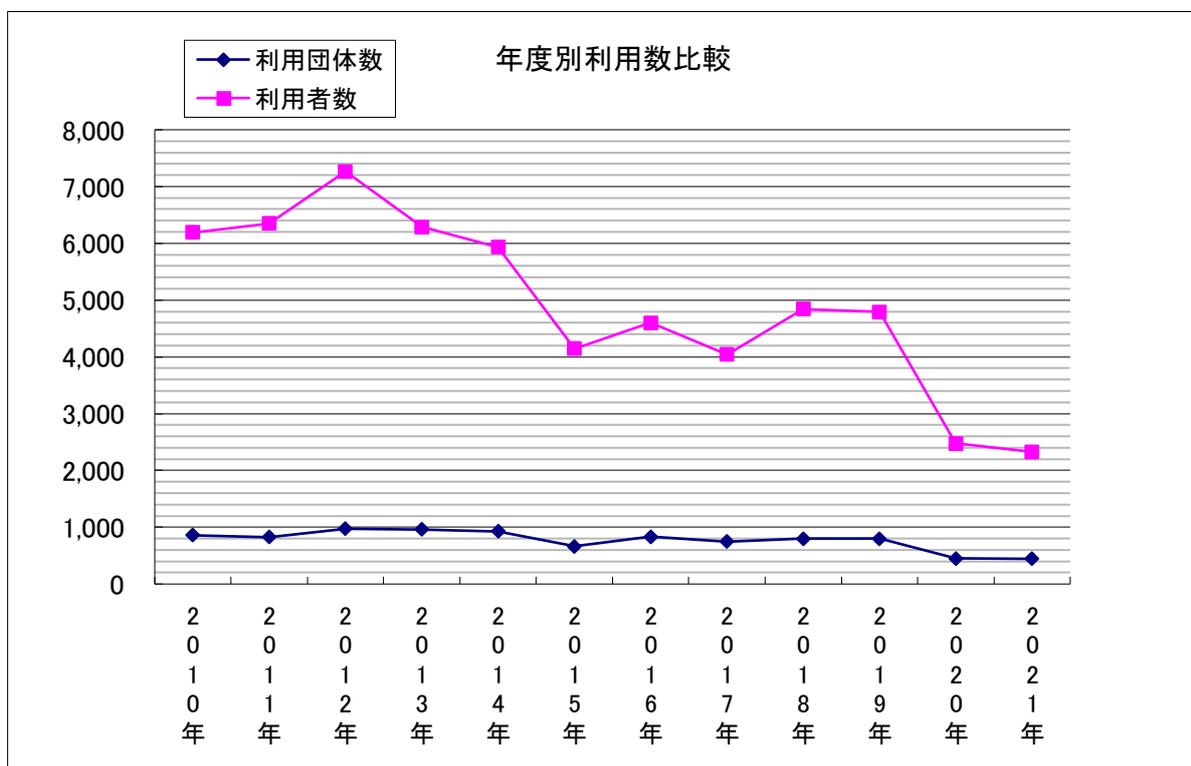
【時間別会議室利用団体数】

利用団体数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10:00~12:00	10	6	10	13	9	4	12	13	11	10	10	10	118
12:00~17:00	20	11	28	23	14	23	18	17	14	16	20	11	215
17:00~19:00	2	1	2	1	2	1	1	0	1	1	1	2	15
19:00~22:00	11	5	13	10	8	5	6	6	8	9	4	10	95
合計	43	23	53	47	33	33	37	36	34	36	35	33	443



【年度別利用数比較】

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
利用団体数	862	828	972	960	929	663	833	750	796	801	449	443
利用者数	6,191	6,352	7,266	6,290	5,932	4,146	4,598	4,046	4,842	4,793	2,477	2,327



(2) 市民活動基礎講座ならびに市民活動スキルアップ講座の開催業務

内容

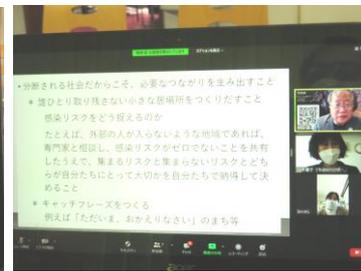
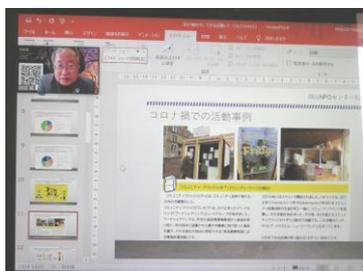
多様化する地域課題解決に向け、マネジメント、実務、情報発信等の組織基盤強化及びコロナ禍での活動の在り方をテーマに織り交ぜた研修を行った。2020年度に引き続き、オンラインの講座を行う等、新型コロナウイルス感染予防を意識した事業を展開した。コロナ禍の中、感染リスク防止の環境整備、多様な媒体を駆使したコミュニケーションによるつながりづくり等、新しいスタイルを取り入れた事業、サービス展開等、今治市内の多様な現場における工夫や知恵を共有する機会となった。社会変革性、当事者性等、市民活動の特性を磨きながら、企業や行政との協働の視点が必須であることを念頭に、協働のパートナーとしての成長につながることを共有できた。

第1回 コロナ禍 今、できる活動って！？

※詳細 p6

2021年4月17日(土) 13:00~14:30 参加者:8名(オンライン7名・来場1名)

新型コロナウイルス感染拡大は市民活動の現場にどのような影響を与えたのかを分析。感染防止をしながら活動を続けている団体の事例紹介から、気軽に参加できるプラットフォーム形成、双方向を実現するオンラインでのつながり等を学んだ。



第2回 効果的な企画書の書き方

2021年4月27日(土)~5月1日(土) 10:00~12:30

参加者:3名

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、参集して研修会を開催することが困難な状況にあったため、時間を区切った個別相談会形式で開催した。新規事業を立案している方の相談に応じる形で、分かりやすい企画書の書き方についてワークシートを活用して学び合った。



第3回 基礎から学ぶ NPOのための会計講座

※詳細 p7

2021年10月1日(土)~10月2日(土) 10:00~12:30

参加者:8名

活動を行う上で重要視される会計の基本を学んだ。現金管理、帳簿、領収証の整理などの基本、勘定科目の設定、一連の報告の仕方等の共有を行った。複式簿記の大原則を確認し、勘定科目を確認しながら仕分をするワークで学びを深めた。希望者には会計事務所による個別相談を行った。



コロナ禍 のまちづくり



分断・自己責任…、そして孤立。困難な事象が当面続くことが予想されます。そんな中“好きなことに関わる”“気軽に参加できる”プラットフォームが多様に生まれています。社会貢献の場と時間を生むしくみ・システムの創出は共生・共助のまちづくりへのヒントです。



自粛、我慢が続く日常。オンラインでの「会議」「広報活動」はもちろん、「観光や帰省」「イベント」の展開が各町で工夫されました。FB・チャット・ライン等の機能の活用、動画配信により実現しているのは“双方向性”。リアルにつながる工夫を参考にしたいですね。

生活を一変させた新型コロナウイルス。NPOの活動にも大きく影響しました。対面活動、イベント自粛を余儀なくされながらも、目の前の課題はより深刻になるという危機的な状況も…。状況を捉え、活動にいかすため、この程、事例共有の講座を開催しました。それぞれの事例は困りごとに寄り添い、その解消への大きな拡がりを見せていました。そこには市民の善意をまちのチカラに返る「つなぎ手」の存在が…。編み出した工夫・アイデアを共有しましょう。



◀愛媛大学社会連携推進機構地域連携コーディネーター・SDGs推進室副室長の前田眞さんにオンラインで事例提供をいただきました。Zoomを使った学びの場を提供できることは、コロナ禍で得たスキルの一つ。

事例①コミュニティフリッジ(岡山市)

「コミュニティフリッジ」とはコミュニティ全体で使える冷蔵庫のこと。2012年にドイツ・ベルリンで食品廃棄削減による環境保護活動の「フードシェアリング」から派生。コロナ禍で困難を抱える親子・学生への支援につながっています。



事例②テイクアウト部(松山市・今治市)

テイクアウト利用店舗情報を共有し、困窮する飲食店を支援するしくみが機能。ポイントは「理念への共感者が自らの強みをいかし、役割を能動的に果たす自立的な運営」です。誰でも自由に発言できるプロジェクトスタイルは、これまで社会貢献に関心がなかった層の社会参画を促しました。今治市では、個人参加と多様な主体の協働体制が整い、「いまばりエールプロジェクト」として制度化されました。



《参加者の声》

- ・知らない事例ばかり。勉強になった。
- ・シトラスリボンの活動が愛媛で誕生したことを初めて知った。
- ・オンライン講義なので、もっとたくさん(市外の人)にも聴講してほしいと思った。
- ・Zoomを初めて利用した。



「コミュニティフリッジ」「テイクアウト」どちらの事例も、ネット上で気軽に関われるしくみで、参画の敷居を下げたことが特徴的。参画者はリアルタイムでコミュニケーションでき、当事者意識の醸成を促しています。



事例③オンラインで市民をつなぐ

オンライン帰省
(大洲市)

知っていますか?

シトラスリボンプロジェクト!



Citrus Ribbon PROJECT

「誹謗・中傷、差別をしない」その思いを見える化したリボン。愛媛の有志6名が作りました。3つの輪は、地域と家庭と学校や職場。プロジェクトは全国へ波及しています。



まちなか成人式
(今治市)

*感染拡大に伴い延期

オンラインでも“双方向”。改めてつながりづくりへの思いを感じます。「ただいま」「おかえり」と言いあえるまちにするシトラスリボンプロジェクトの精神です。

多くの共感を得て、社会から信頼される活動を育んでいくために、情報発信は活動の肝！コロナ禍で SNS 等でのつながりづくりは加速度的に普及しました。不得手な世代が多い現場は、逆手にとって若者をサポーターにしたいところです。各町での好事例を循環させ、「誰一人取り残さない」持続可能なふるさと・今治のまちの実践にいかしたいものです。

基礎から学ぶ NPOのための会計講座

～協働の担い手講座～



「やらないといけないけど、後回しになって…」日々の活動への注力に加え、会計処理等に関する専門的知識を持つ人材が不足している現場から聞こえてくる声です。ただ、賛同する人や組織から資金を提供してもらい、活動を創造する私たちにとって、使用したお金の報告をきちんと行うことは重要です。今回は会計の基本を座学とワークを通して学びました。

NPOにとって会計とは

会計＝資金・資材の出入りを管理すること

第三者にきちんと説明するための客観的資料作成

NPOとしての会計報告の目的は、一般市民に対して情報開示を行うことで、社会的な信頼とより多くの賛同者を得ることです。「誰のため」「何のため」にするのかを考えることで、その意義を共有しました。

★誰のため：資金を提供してくださる方（会員・寄付者等）

労力を提供してくださる方（ボランティア等）

一般市民のため（所轄庁へ提出）

★何のため：活動の分析（反省材料にする）

予算の立案（計画に従ってお金を集める）

活動を伝え、支持・支援者を増やすため

NPO法人会計基準の策定の経緯

NPO法人の統一した会計報告のルール

①市民にとって分かりやすい会計報告

②社会の信頼に応えうる正確な会計報告

従来からNPO法人は「収支計算書」、「貸借対照表」、「財産目録」の作成をNPO法で義務付けられていました。ただ、具体的な会計基準はなく、NPO法人が作成する会計書類は統一化されていませんでした。その結果、外部の利用者にとっては、NPO法人の活動実態がつかみにくいという課題がありました。こうした状況を改善するために、平成22年7月20日にNPO法人会計基準が策定されました。



もっと詳しく知りたい時は… [検索](#)
「みんなで使おう「NPO法人会計基準」」
財務諸表作成のために重要なチェックポイントを紹介しています！

NPO法人の会計書類

活動計算書：全体像

全体の「収益」「費用」とその差額を見せるもの
発生主義会計により、1年間の正味財産の増減を表す

貸借対照表：年度末時点の財産状況

「資産」「負債」「正味財産」のどの有高

*「資産合計」＝「負債合計」＋「正味財産合計」

財産目録：財産の内容を詳しく記載したもの

科目ごとに個別に「どこに」「なにが」あるか記載

*見た目は「貸借対照表」とほとんど同じ

財務諸表の注記：義務と任意選択の項目あり

重要視！！会計上の情報を明確にするためのもの
義務ある「7つの項目」

任意選択の「3つの項目」

個別相談会

受講団体のNPO法人は、初決算を迎える団体から、活動歴が長い団体まで様々。顧問税理士がいない団体も多く、個別・具体の相談対応の機会は貴重でした。



決算書の基本理念をおさえ、具体的な処理の流れをワークで確認した講座でした。具体例をもとにした書類作成ワークは一つの経験となったようです。会計に関する悩みは色々…。お気軽にご相談ください。

NPO法人の会計書類づくりワーク

複式簿記の大原則と書き方を確認！

勘定科目を確認しながら仕分にチャレンジ！！

会計書類で見えることを学び、「NPO法人会計基準が定めたルール」をおさえた後は、決算期を迎えたNPO法人を想定したワークを実践。取引ごとに仕分し、「借方」と「貸方」の二面について、理解を深めました。その後、帳簿を見ながら、決算書類を完成。実際の書類作成を通して、ポイントをおさえることにつながりました。

「現金出納帳」「預金出納帳」「総勘定元帳」から「活動計算書」「貸借対照表」「財産目録」を作成！



「未払金」「未収金」等、決算手順のワークに悩みながらも、何とかクリア。

(参加者の感想)

- 発生主義等、用語の理解が進んだ。
- これまで「これでいいのかな」と思っていた作業の理屈の理解や修正につながった。有意義だった。
- 会計ソフトからしっかり検討したい。
- 1年の流れから会計処理の意味を勉強できた。

対象	協働のまちづくり・市民活動に関心のある一般市民
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、少人数開催、個別相談形式など、参集の仕方を工夫して開催した。 ・市外の講師はオンラインでつなぐ等の手法を導入しての開催とした。 ・会計などの技術的な学びについては、税理士など、地域の専門家の協力を仰ぎ、研修会後の継続的なフォローアップにつないだ。
結果	オンラインの講座は、参加者が手軽に受講できるメリットを体感できた。チャット機能を使うことで、双方向での学び合いも可能である。また、講座内容のスキル獲得に留まらず、情報受発信の新しい手法として、インターネットの利便性への気づきを得た団体があった。一方で、団体同志の学び合いの場から生まれるつながり構築は難しい。同じ規模や分野の活動団体双方が介することで、連携につながることもあることから、対面する機会の創出は模索していきたい。

(3) 機関紙発行とこれに付随する情報収集業務

内容	「夢サラダ」(年間2回)、「得夢サラダ」(年間12回)を編集、発行した。また、一般市民が訪れる場所に「夢サラダ」を設置し、活動経験のない一般市民に情報を届け、市民活動の意義や魅力を伝えた。
対象	市民活動団体・一般
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の担い手を紹介することで、まちの特性を感じることができる誌面とした。 ・ホームページでも情報を伝えた。
結果 課題	市民活動団体等114団体、施設・機関202箇所に配布した。配布部数は毎月冊子1,790部、掲示用346部となった。配布協力いただいている施設の閉館等があり、配布部数は微減となった。ボランティア募集やイベント開催の自粛傾向が続く中、コロナ禍での助成金・補助金情報、市外で開催されるオンラインでの講座情報等、掲載内容の収集、加工を工夫した。掲載内容は本会のホームページへ掲載し、多様な方へ情報を届けるよう努めた。より多くの方に購読してもらえよう、誌面の工夫、配布・掲示場所の開拓と共に、配信方法の工夫や見直しにも取り組んでいきたい。

(4) 市民活動団体相互の交流推進業務

<p>◆使用者協議会</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年、センター登録団体を中心に、市民活動団体が参集しての協議会を開催していたが、使用者の安全性を優先し、自主点検を依頼した。火災等の災害への備えとして、避難経路の確認、消火器の場所の確認等を依頼すると共に、事務室を中心に施設内や備品等の修繕必要箇所の確認を個別に進め、共有した。下半期は以下の通り、感染予防策を講じての取り組みを行った。</p> <p>2021年12月15日(水) 11:00~12:30 参加者:15名</p> <p>センター使用者によるセンター大掃除を行い、その後、センターの管理運営業務などについて使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。新型コロナウイルスの影響で活動に制限はあるものの、工夫して活動している様子が報告された。</p>	
---	---

対象	使用登録団体・市民ボランティア・行政職員
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・今治市内の団体の活動紹介の場とする。 ・多様な活動に触れ、活動の広がりを感じてもらえる取り組みとする。 ・センターの使用に主体的に関わっていただけるよう依頼する機会とした。施設・設備、備品などのハード整備の優先順位、講座などのソフト支援の重要事案などへの共通認識構築の場とする。
結果 課題	<p>会議室や事務所の使い方のルール等の見直し、講座のテーマの検討等、ハード・ソフト両面について、使用者自らが参画しながらセンター運営していけるようにするための協議の場として機能している。また、毎年1回行う防火訓練、避難訓練の場とするとともに、今期からは自動体外式除細動器「AED」設置施設として、AED使用の周知の機会とした。年度当初は、新型コロナウイルス感染拡大期を勘案し、事務室使用団体を中心に、自主点検を促した。避難経路確認、消火器設置場所の確認について、各団体の使用者が点検し、点検結果については、チェックシートを提出いただいた。12月には少人数で参集し、大掃除を使用者参画のもと行い、使用者にも施設の美化環境整備への理解を仰ぐことができた。</p>

(5) ボランティアコーディネート業務

内容	ボランティアの応援を求めている方とボランティア活動をしたい方をつなぎ、双方が対等な立場で共に問題解決を図った。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・今治市社会福祉協議会と連携をとりながらすすめる。 ・情報提供を求めている人には、機関紙「得夢サラダ」やホームページなどを利用して活動を紹介する。
結果 課題	<p>ボランティアの応援を求めている組織・個人、ボランティア活動をしたい方のコーディネートを関係機関と連携し進めた。昨年に続き、コロナ禍の中、活動現場の減少や新規の活動者の受入見送り等が続いており、マッチングが難しい1年となった。一方、夏季休暇を利用しての学生ボランティア、新たに活動をはじめたいとの声はあり、少しずつ活動への意欲が感じられた。</p> <p>感染対策を徹底してのイベント開催、福祉施設や病院等でのボランティア受入に向け、安心・安全なボランティアの活動環境について検討し、コロナ禍でもやりがいを持って楽しめるボランティア活動の現場づくり、地域コミュニティでの活動の発掘等を推進したい。</p>

(6) 相談業務

内容	団体設立や運営などのアドバイスを、電話・メール・来所にて日常的に受け付け、対応した。
対象	市民団体・行政職員
手法	<ul style="list-style-type: none">・市民活動団体が自らの課題を整理し、その解決策を発見することを支援する。・職員で対応できない専門的な質問については、地域資源（地域の専門家、他の支援センターなど様々なテーマに応えられる人、組織）を活用し、支援を行う。・初歩的な質問については、フロアーに掲示し、来館者に視覚的に知らせる。
結果課題	団体設立や運営などの相談に電話・メール・来所にて対応した。コロナ禍の中、新しい形での運営、感染対策を徹底しての活動などへの助成、企業の社会貢献活動等の相談があった。自然災害が頻発しており、災害時における復旧、復興活動と日常的な活動の連動性等を検討する相談も寄せられた。なお、今期、島嶼部で開設している出張相談、啓発ブースは中止した。新しい生活様式の中での活動展開、災害に備えたコミュニティづくり等、地域のウォンツとニーズを見極めた提案型の支援を展開したい。

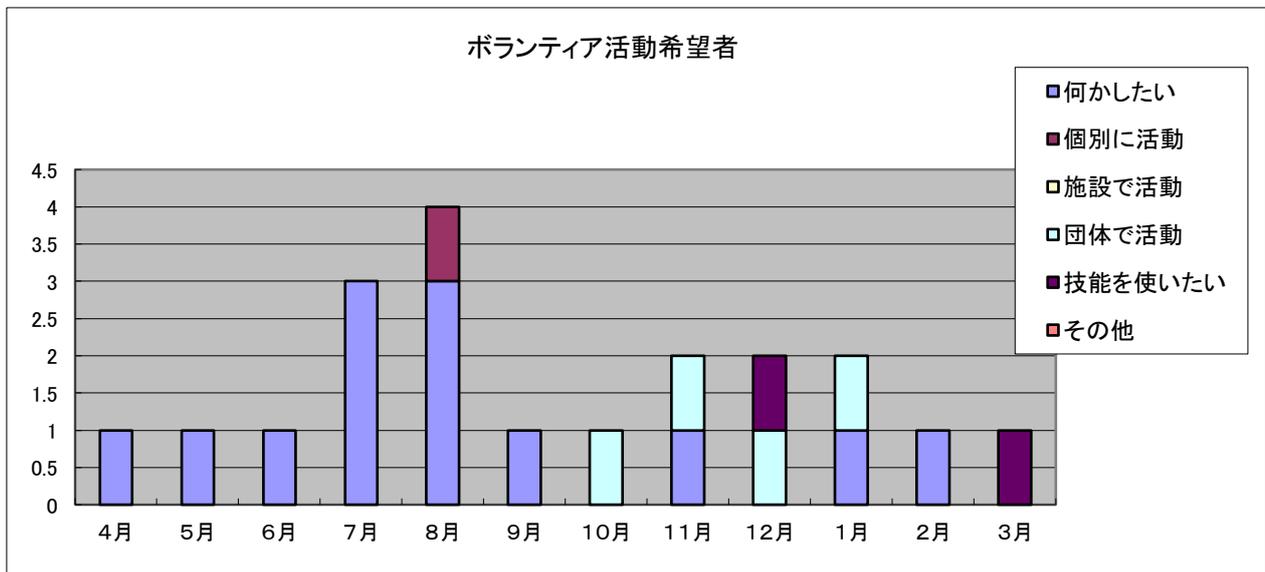
(7) まちづくりサポーター業務

内容	仕事や趣味などを通じて得た知識、経験や技術を、まちづくりのための様々な場所や場面にいかしていただけるよう斡旋・紹介を行う。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	<ul style="list-style-type: none">・まちづくりサポーターとして活動できる組織・個人を登録し、HPで紹介する。・団体が内部の人材では解決できないことがある場合、斡旋する。
結果課題	ボランティア活動希望者が相談に訪れた際には「まちづくりサポーター」制度の照会を行う等したが、新たな登録はなかった。 2022年以降は、個人が持つ専門知識、技術・能力、経験、人脈等のスキルを情報として把握し、ボランティアコーディネーション業務として、活用したい。

コーディネート状況詳細

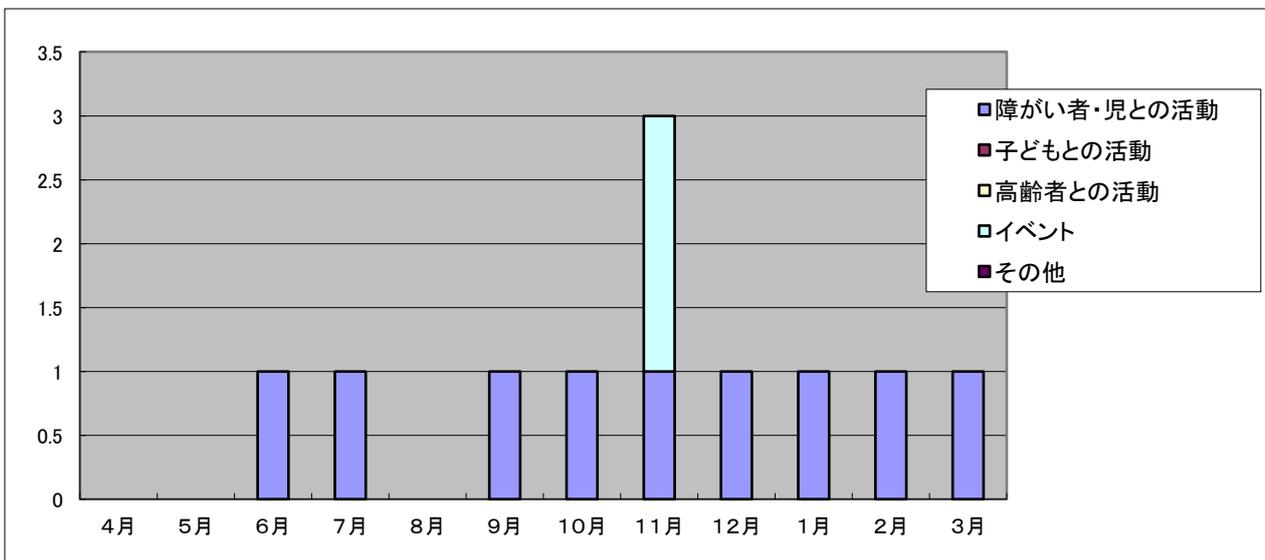
①ボランティア活動希望者

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
何かしたい	1	1	1	3	3	1	0	1	0	1	1	0	13
個別に活動	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
施設で活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
団体で活動	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	4
技能を使いたい	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	1	1	3	4	1	1	2	2	2	1	1	20



②ボランティアを受け入れたい組織・個人

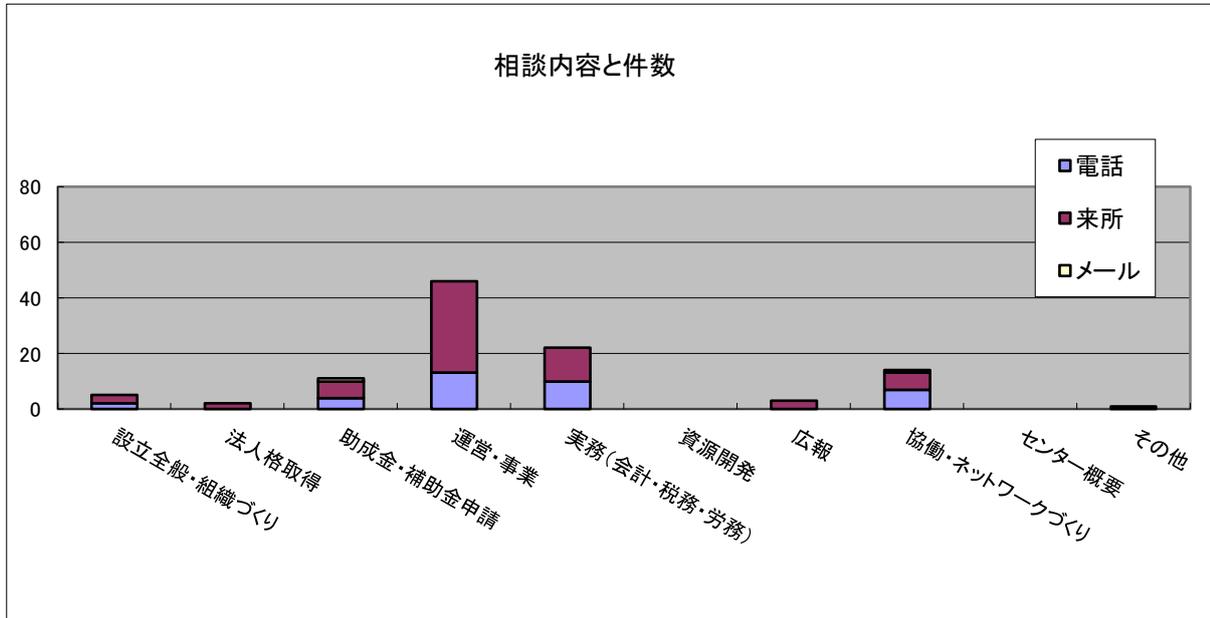
ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
障がい者・児との活動	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	9
子どもとの活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高齢者との活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イベント	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	1	0	1	1	3	1	1	1	1	11



相談状況詳細

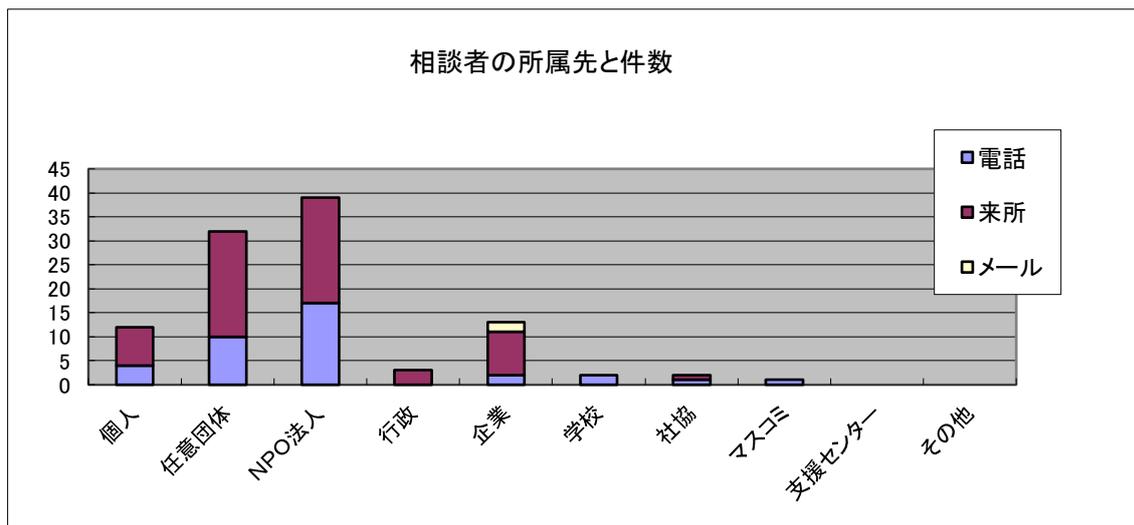
【相談内容と件数】

	電話	来所	メール	合計
設立全般・組織づくり	2	3	0	5
法人格取得	0	2	0	2
助成金・補助金申請	4	6	1	11
運営・事業	13	33	0	46
実務(会計・税務・労務)	10	12	0	22
資源開発	0	0	0	0
広報	0	3	0	3
協働・ネットワークづくり	7	6	1	14
センター概要	0	0	0	0
その他	1	0	0	1
合計	37	65	2	104



【相談者の所属先と件数】

	電話	来所	メール	合計
個人	4	8	0	12
任意団体	10	22	0	32
NPO法人	17	22	0	39
行政	0	3	0	3
企業	2	9	2	13
学校	2	0	0	2
社協	1	1	0	2
マスコミ	1	0	0	1
支援センター	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	37	65	2	104



2. その他の事業

(1) 情報提供事業

① トークカフェ in ラヂオバリバリ

期間：2021年4月～2022年3月

協力：エフエムラヂオバリバリ

地域の情報を広く社会へ伝える手段であるコミュニティ放送を媒体に市民活動団体紹介、ボランティア情報などを毎週1回に発信した。草の根活動の動きを大きなチカラにいくために、ラジオを通して人と人の交流を深めた。(今治市民活動センター管理運営事業自主企画事業)

② ホームページの運営

期間：2021年4月～2022年3月

センター事業の紹介と報告、ボランティア情報などをホームページに随時掲載した。広く情報を受発信することにより、ボランティア活動の仲介コーディネート業務にも役立った。また、「今治市民活動センター」事業である「まちづくりサポーター」の制度紹介のページを設けた。サービスを提供したい個人・団体の紹介を発信した。NPO等、ボランティアの応援を求める組織のニーズ紹介等を充実させることが課題である。

(2) 審議会・委員会への参加事業

行政が設置する委員会・審議会へ参加しました。

期間	名称(主催団体)	テーマ・目的
2021年 6月11日	今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会	今治市人口ビジョンおよび今治市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に係る意見集約、提言。*書面提案。
2021年 11月1日/12月14日 /2022年2月16日	今治市市民が真ん中検討委員会	市民と行政が一緒になって地域課題の解決を進めていくために、今までの取組の見直しや、「市民参画」の具体的な方法等について、調査・検討・審議する。

(4) その他の事業

今治市の中間支援組織として、愛媛県内の中間支援組織とのネットワークを構築し、地域で抱える様々な課題に効果的に対応できるよう情報、知識・技術の習得に努めた。また、愛媛県内の多様なNPOや民間団体等と平時から顔の見える関係をつくり、必要な事業を展開した。

① 女性相談支援事業「ひめはぴサポートプロジェクト」への協力

愛媛県はコロナ禍で影響を受ける女性と社会との絆・つながりの回復を支援する目的で、「ひめはぴサポートプロジェクト」を展開した。SNS、メールを活用した新たな相談窓口の開設や出張相談等のほか、相談にあわせて衛生用品の配布を行うものである。当会は、このプロジェクトの受託団体からの申し出を受け、今治市内の個人や子ども食堂などの受入施設・団体へ生理用品配布などを行った。



② 災害に備えるネットワークづくり

大規模災害発生時、今治市社会福祉協議会と地域の各種団体が連携し、災害ボランティアセンターを設置すること等を検討する会議に参加した。2018 年度に発災した「西日本豪雨」における被災地支援活動の気づきをいかすと共に、必要なネットワークの構築、官民の役割分担を検討した。

・災害ボランティアセンター運営マニュアルの作成

検討会議：2021 年 6 月 25 日（金） / 今治市社会福祉協議会

・情報交換と災害ボランティアセンター運営マニュアルへの反映

情報交換：2021 年 12 月 16 日（木） / 今治市社会福祉協議会

③ 研修会への参加

【地域協働ネットワーク構築支援事業】

中間支援組織を核とした NPO など多様な主体と、行政や社会福祉協議会との連携を推進し、平時からの顔の見える関係の構築及び地域課題解決に向けた活動促進を図る意見交換等を進めた。

全県会議：2021 年 10 月 19 日（火） / ON ライン

【新型コロナウイルス NPO 支援組織社会連帯（CIS）】

新型コロナウイルスの影響やその支援策を共有する会議（ON 会議）に参加。国の制度を含め、支援の在り方、支援策の検討等を行い、今治市内での対応策に役立てた。

会議：2021 年 10 月～2022 年 3 月 / ON ライン

※定款上、「その他の事業」は実施しなかった。

3. 会議に関する事項について

（1）総会

第 20 回通常総会

日時：2021 年 4 月 26 日

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2020 年度事業報告・活動決算報告の件
定款変更の件

（2）理事会

第 1 回理事会

日時：2021 年 4 月 26 日

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2021 年度事業計画・活動予算の件
役員・有給役員の件
総会に付すべき事項の件

第 3 回理事会

日時：2022 年 12 月 9 日（日）18：30～

会場：アンカー

議題：センター管理運営の件
センター事業の進捗の件

第 2 回理事会

日時：2021 年 9 月 22 日（水）12：30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：センター管理運営指定申請の件
センター事業の進捗の件

第 4 回理事会

日時：2022 年 3 月 28 日（月）12：30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2022 年度事業計画・活動予算
2023 年度総会報告事項